

1 学力向上検討委員会構成

| 学力向上検討委員 |                                    |                          |
|----------|------------------------------------|--------------------------|
|          | 職名・校務等担当名                          | 氏名                       |
| 管理職      | 校長<br>教頭                           | 中内 貴文<br>森本 裕美           |
| 学力向上推進員  | 教諭(教務課長)                           | 上田 英見                    |
| 委員       | 教諭(小・中学部長)<br>教諭(高等部長)<br>教諭(支援課長) | 田中 敦子<br>村上 久美子<br>児島 正典 |

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| (小・中学部) 幼児児童生徒の状況  |  |  |
|--|--|--|
| よさ   | 様々なことにまじめに取り組み, その成果を児童生徒にわかりやすくフィードバックしたり, 活動へのモチベーションが高まるような学習環境の設定をしたりすることで, 意欲的に取り組めることが増えてきた。また, 学部でまとまって活動する中で, 友だちや下学年の児童生徒を思いやりながら, 自分ができることに主体的に取り組む姿もみられるようになってきた。 | 課題<br>少人数の学部であるため, 関わる人の幅が狭くなり, 日ごろ関わる人が少ない人と接するときには, 萎縮してしまう傾向がある。しかし, 学部外や外部の人と関わる機会を積極的に設けていくことで, 色々な人と関わりを広げながら, 自信をつけ, 様々なことにチャレンジできるようになってほしい。そのための重要なスキルとなる人と関わる力やコミュニケーション力を伸ばしてほしいと考える。 |
| 具体的目標(目指す子どもの姿)  | 成果指標   | 達成状況   |
| ・コミュニケーションを中心に人と関わる力を向上させる。  | ・個別の指導計画において, コミュニケーションや社会性に関する後期の学期目標の評価が, 「達成」「ほぼ達成」となる割合が75%以上となる。  | 個別の指導計画において, コミュニケーションや社会性に関する後期の学期目標が児童生徒6人について全部で43個立案され, その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が84%であった。<br>評価: A   |
| 具体的方策(教員の取組)   | 取組指標   | 取組状況   |
| ・標準化された検査によるアセスメントを行い, 客観的な実態把握を行う。<br>・個別の指導計画の年間目標及び学期目標にコミュニケーションや社会性に関する目標を設定する。<br>・個別の指導計画に関するケース会で目標と手だてを共有する。<br>・指導の経過について, 進捗状況等を見直しケース会等で報告し, 指導について検討したり共通理解を図ったりする。<br>・設定した目標に対する評価を行う。  | ・コミュニケーションや社会性に関する個別の指導計画の学期目標を一人につき2個以上設定する。<br>・個別の指導計画に関するケース会及び見直しケース会を年間5回以上行う。   | ・コミュニケーションや社会性に関する個別の指導計画の学期目標をそれぞれに5~9個立案された。<br>・個別の指導計画に関するケース会及び見直しケース会を年間5回行った。   |
| * 中間期の見直し  |  |  |
| 達成状況を踏まえた改善事項  |  |  |
| 今年度は, 個別の指導計画においてコミュニケーションや社会性に関する目標について取り組んだ。コミュニケーションや社会性に関する課題はどの児童生徒にもあり, 社会生活を送っていく上で重要なスキルであるため, たくさんの目標が立案され, 指導の成果もあった。今後も児童生徒の重要課題として, 継続して取り組んでいきたい。また, 学校内や学部内だけでは解決できないような課題については, 外部の専門家にアドバイスをいただく機会を活用しながら実践していくと共に, 教員の専門性の向上も図っていきたい。 |  |  |